平成２７年度　第３回大和市文化芸術振興審議会　会議要旨

１．日　時　　平成２７年１１月２４日（火）午前１０時３０分～午後０時５０分
２．場　所　　大和市立大和小学校 第二集会室
３．出席状況　委　員９名（深澤会長、小林委員、坂本委員、橋本委員、服部委員、伏見委員、
　　星野委員、吉川委員、米屋委員）
　　事務局３名（文化振興課長、文化振興担当２名）
４．傍聴人　　なし
５．議　題
　１ 開会
　２ 大和市「対話による美術鑑賞事業」視察・意見交換
　３ その他
　４ 閉会

６．会議資料
　○大和市「対話による美術鑑賞事業」パンフレット

【会議要旨】
　１ 開会
　○文化振興課長より挨拶

　２　大和市「対話による美術鑑賞事業」視察・意見交換
　○市から、大和市「対話による美術鑑賞事業」の概要について説明。
　○大和市「対話による美術鑑賞事業」視察

　○大和市「対話による美術鑑賞事業」に関する意見交換
　会　長：市民ボランティアの方々が子どもたちの意見を上手く引き出せていた。この事業で使用されているＶＴＳ（ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ）という手法は、ニューヨーク近代美術館で研究開発されたとのことだが、おそらく、アメリカは、多くの民族が住む多文化の国なので多様な価値観を認め合う社会をつくるための一手法として開発されたのではないかと感じた。
　委　員：子どもたちがすんなりと入り込んでいけるプログラムで驚かされた。特にアートカードは、制作された国や時代が異なる絵画や写真、彫刻作品等がカードになっており、カードゲームを通して美術を身近に感じることのできる教材で素晴らしかった。
　委　員：市民ボランティアの方々の質の高さに驚かされた。共通理解の下、子どもたちと対話しており、研修の成果が表れていると感じた。特に自分の意見を話すことが苦手な子どもへのサポートがとても上手だった。様々な性格の子どもに対応するプログラムで素晴らしい内容だった。
　委　員：子どもたち全員が自分の意見を話せるように工夫がなされていた。アートを通じてコミュニケーションが図られており、素晴らしい内容だった。今の時代は、子どもたち全員に平等の発表機会を与えることが当然のことのようになっているが、自身の学生時代は、そうではなかったように感じる。

委　員：授業を視察し、電子黒板に映し出された作品の題名や作家等の情報を子どもたちに教えた方がよいのではないかと感じた。作品、作者の背景を理解したうえで授業に臨むことで、アプローチの仕方が変わってくるのではないかと感じた。

委　員：私も同じ感想を持ち、関係者に伺ったところ、子どもたちが知りたいと思うまではあえて教えないとのことであった。あくまで美術作品は、子どもたちから意見を引き出すためのツールにすぎず、この授業には作品や作者の情報は必要ないとのことであった。
市民ボランティアの方々は、しっかりと訓練されて素晴らしい。
今回は４年生の授業だったが、高学年になると同じプログラムでは対応が困難になる部分もあると思うので、多様なプログラムがあるとよいのではないかと感じた。

委　員：４年生の授業ということを念頭に視察した。素晴らしい内容の授業だが、難しい内容もあると感じた。他学年の場合は、どのようなプログラムで授業が進行されるのか、また、子どもたちがどのような発言をするのかが気になった。高学年になると、異性を意識したり等で上手く対話ができないのではないかと感じる。
担任の先生が、上手に話すことができない子どものサポートをしている様子が印象的であった。

委　員：子どもたちは、絵画を隅々まで見て、意見を発言していたが、美術鑑賞のレベルがかなり高度であったように感じる。大人でもあのようには答えられない。絵画の見方、感想を言えるように成長していってほしいと感じた。

委　員：行政が新しい事業を実施するのは非常に困難なことである。教育委員会と市長部局が連携している点でも画期的な事業だと考える。この授業を受けた子どもたちが、今後、１０年、２０年後に成長した姿が楽しみである。
美術大学と連携した事業展開等も新しい効果を生み出すのではないかと考える。
専門的な研修を受けたボランティアが多く育ち、垣根を超えて他のジャンルでも活躍できるようになることで、ボランティアの質は高まり、活躍の場は点から面に広がりを見せていくのではないかと感じている。

３ その他

〇市から、次回の開催日程について説明。
１月末以降の開催を予定している。後日、改めて日程の調整をすることを報告。

４　閉会